

将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の平成29年度実績評価について

【総合評価】

○自己点検（病院事業管理者）

当院は、ビジョンとして「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」と掲げており、その実現に向けて取組を進めています。

平成29年度は、病院の方向性の理解・ボトムアップによる病院改革・多職種連携を目指し、中堅若手職員によるプロジェクトチームでの現状分析や各部署の責任者によるワークショップでの議論を行いました。また、「病院本」の発行による当院の紹介、広報専従担当配置による情報発信の強化、開業医との連携強化を目指し、初めてクロスミーティング（開業医との連携の会）を開催するなどの取組を行いました。

将来構想のKPIでは、高度急性期・急性期医療を担う病院として、平成29年度は、患者さんに対する看護の必要量を測る指標である「重症度、医療・看護必要度」について、7:1入院基本料の基準である25%以上を満たすことができました。また、地域医療連携を進めた結果として、紹介率や逆紹介率が上昇してきているほか、「通院不要的退院率」が向上したことで、十分な人員配置及び設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制等を評価する「総合入院体制加算2」の算定を計画より早く開始することができました。このほか、平成29年4月には、神奈川県から救命救急センターの指定を受け、7月からは「救命救急入院料1」の算定を開始するなど、「断らない救急」を実践することで、救急患者の受入数は増加しており、方針に沿った取組が進んでいると考えています。

一方で、救急車搬送患者のうち、入院患者の比率は、伸び悩んでおり、今後も三次救急体制を充実させるとともに重症患者を確保していく必要があります。また、医師不足により手術件数や全身麻酔件数も伸び悩んでいることから、対策が必要と考えています。

このように対策が必要な部分はあるものの、高度・急性期病院を示す特徴的な指標については、成果が上がってきています。

また、市の施策も踏まえ、政策的医療である小児・周産期医療などを担っています。平塚・中郡地域では唯一産科・小児科の二次救急患者の受入れを行っており、「産科の救急受診患者受入数」は増加しています。小児科の救急受診患者についても、休日・夜間急患診療所や地域の医療機関との役割分担を図りつつ、受入れを行っており、市民の安心・安全に寄与していると考えています。

しかし、財務状況を示す指標を見ると、看護師不足により稼働できていない病床があることや呼吸器系や麻酔科の医師不足による手術件数の伸び悩みなどにより、入院収益が計画を下回ったほか、給与費の増加なども見られ引き続き取組が必要な状況です。

今後も、経営状況を見ながら、医師・看護師不足の解消に向けた取組や情報発信によるPRなどにより患者さんを確保し、収益向上を目指すとともに、コスト意識の醸成と価格交渉の更なる強化により、経費削減を図るなど、職員一丸となって経営改善に取り組んでまいります。

(参考)

項目		H27	H28	H29	項目		H27	H28	H29	項目		H27	H28	H29
重症度、医療・看護必要度 ※H29目標値：26.5	上半期(%)	-	29.5	29.2	紹介率 ※H29目標値：68.0	上半期(%)	58.8	62.3	68.5	逆紹介率 ※H29目標値：85.0	上半期(%)	77.0	84.1	89.4
	年間(%)	18.5	29.4	28.8		年間(%)	58.5	62.3	67.3		年間(%)	78.3	86.6	92.6
通院不要的退院率 ※H29目標値：40	上半期(%)	24.1	26.1	43.5	救急搬送患者受入数 ※H29目標値：7,800	上半期(件)	3,367	3,813	3,933	救急車搬送患者入院患者数 ※H29目標値：2,500 ※()内は救急搬送患者受入数に対する率	上半期(件)	1,156(34.3)	1,159(30.4)	1,174(29.8)
	年間(%)	23.8	28.9	46.7		年間(件)	7,027	7,854	8,047		年間(件)	2,365(33.7)	2,420(30.8)	2,441(30.3)
手術件数（中央手術室） ※H29目標値：3,800	上半期(件)	1,799	1,866	1,850	全身麻酔件数 ※H29目標値：2,550	上半期(件)	1,081	1,232	1,213	産科の救急受診患者受入数 ※H29目標値：290	上半期(件)	149	125	164
	年間(件)	3,562	3,696	3,630		年間(件)	2,162	2,484	2,473		年間(件)	280	277	326
小児科の救急受診患者受入数 ※H29目標値：2,080	上半期(件)	1,092	1,621	1,524	医業収支比率 ※H29目標値：83.3	上半期(%)	96.5	93.3	93.8	経常収支比率	上半期(%)	115.4	111.8	112.4
	年間(件)	2,020	3,181	2,737		年間(%)	92.1	86.3	83.1		年間(%)	99.8	93.9	93.5

○外部点検（平塚市病院運営審議会）

市民病院は、「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」というビジョンにより、方向性を明確に打ち出しており、それに従って、高度急性期と共に小児・周産期医療という政策的医療にもしっかりと取り組んでいる。具体的には、「総合入院体制加算2」の算定の前倒しなど、職員全体の心構え、意気込みを感じることができる。また、診療報酬改定後の平成30年度の機能評価係数の向上や「急性期一般入院料1」のキープにも、そうした努力の結果を垣間見ることができる。

また、人手不足の中、人材確保に向けた着実な取組による新人看護師の離職率3年連続0%の実現や後発医薬品の使用割合の大幅な向上については積極的に評価したい。

一方、平成29年度の課題としては、医師や看護師等の不足によって、手術件数は伸び悩み、ベッド数も抑制を余儀なくされた。人員の確保が大変厳しい状況にある中、様々な努力を重ねていることは評価できるが、人手不足や働き方改革が叫ばれる中で、持続可能な健全経営を行っていくためには、働きやすく、成長を実感できる職場環境を整え、働いてみたいと思われる職場になるよう更なる取組が不可欠である。

また、地域包括ケアシステムの中での病病連携の推進や今後の人口減少などを考えたときの病院間の役割分担など将来的な展望を検討していくことも必要である。

ビジョンの実現のためには、地域の市民・患者さんの信頼を獲得していくことが不可欠であり、競争や環境は厳しい中ではあるが、今後も多職種が連携し、病院一丸となってこれまでの取組を更に推進して欲しい。

○市長からの意見・指示

市民病院は、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担うという方向性のもと、救急搬送患者の積極的な受け入れや小児・周産期医療の充実などを図り、地域における安心安全な生活に寄与している。また、紹介率や逆紹介率の向上は、地域医療機関との連携を積極的に進めた結果と考える。これらによって、機能評価係数が向上するなど、財務面でも良い傾向が現れてきている。

しかし、入院患者数や手術件数など、将来構想の目標に届かなかった事項は、引き続き、達成に向けた努力が必要である。今後も、健全な経営を目指す将来構想に基づき、収支のバランスを考慮し、継続的に成果が挙げられるよう、取組を着実に進めてほしい。

【平成32年（2020年）度の診療機能及び指標等】

○診療機能

内容	具体的施策	平成29年度	
		評価・検証（病院長）	最終評価（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療の分野を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしていきます。	高度医療・急性期医療の実績は、救急搬送件数や診療単価の上昇に現れており、順調ですが、地域完結型医療の実現に向け、病院間連携の更なる充実が必要と思われます。	三次救急病院として断らない医療を実践しているだけでなく、総合入院体制加算2の算定により急性期病院として恥ずかしくない体制となりました。地域完結型医療を目指し紹介率・逆紹介率ともに上がってきています。
救急医療体制を強化します	救命救急センターの指定を目指し、「断らない救急」を実践するとともに、救急搬送患者をより効率的に受け入れるよう体制を強化します。	救急搬送件数・救急応需率は十分な実績を出していますが、救急医の充実が課題となっています。	救命救急センターの指定を受け、断らない救急を実践して高い救急応需率を保持していますが、救急医不足が課題となっています。
がん医療の充実に努めます	（1）胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの5大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 （2）手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	高精度放射線治療装置を導入し、集学的治療はレベルアップしました。がん診療戦略室の設置による更なる活性化が期待されます。	がん診療は当院の得意とする分野であり、緩和ケアも充実しています。集学的治療としては新規に導入した高精度放射線治療装置を利用する症例数が増加してきています。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	（1）公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 （2）妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けており、お産件数も増加していますが、更なる集約化が必要です。	医師不足や不採算部門のために他院が小児・周産期医療を縮小していく中で、当院の果たす役割には大きなものがあります。更に充実させるためには医師の増員が必要です。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	急性期病態への対応は、ほぼできています。地域のシステム作りにより積極的関与が必要です。	地域包括ケアシステムの中で急性期病院としての役割を果たし、システムの中で指導的立場にあります。
災害拠点病院としての機能を充実します	（1）自然災害に強い病院づくりを目指します。 （2）災害時に多発する重篤患者の受け入れや、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣します。	病院のハードは、新館完成により充実しましたので、病院の運営力の充実が必要になってきます。	大災害に対応できる設備を持っています。災害時に対応できるよう訓練を行い、地域の訓練にも参加しています。

○指標等

項目	内容	平成32年（2020年）度目標値	平成29年度		
			H29実績	評価・検証（病院長）	最終評価（病院事業管理者）
外来	初診時保険外併用療養費	約4,000円（消費税抜）	H29/7/1から4,000円（税抜）に改定	医師不足の呼吸器内科での完全紹介制導入や初診時保険外併用療養費の改定はトラブルなく行うことができました。当院は、救急、紹介による入院中心の診療を行う方針のもと、取組を進めており、1日平均外来患者数も約800人に向けて徐々に近づいています。	初診時保険外併用療養費の増額はトラブルなく実行できました。また、逆紹介を増やし外来患者数の減少につながっています。
	受診体制	一部（紹介率又は診療単価が低い）の診療科は「完全紹介制」とする	H29/4/1から呼吸器内科を「完全紹介制」とした。		
	1日平均患者数	約800人	865.8人		
入院	診療単価	約70,000円	63,469円	「一般病棟医療看護必要度」は、医師を含め、必要度算定の理解が進み、目標をクリアしています。また、「総合入院体制加算」についても、通院不要の退院率に対する医師の理解と協力が進み条件の40%をクリアし、病院機能評価をパスしたことで、加算2の算定ができました。その他の特定入院料算定も実現しており、診療単価も初年度としては一定の水準になってきていますが、今後の更なる診療単価の上昇のためには手術件数の増加が不可欠です。	救命救急入院料1と総合入院体制加算2を算定できるようになり診療単価が上昇しましたが、70,000円を達成するためには医師不足を解消して手術件数を増やすなど更なる努力が必要です。
	一般病棟（特定入院料算定棟を除く）の医療看護必要度	約28%	28.8%		
	特定入院料の算定（施設基準）	（1）救命救急入院料	H29/7/1から算定開始		
		（2）ハイケアユニット入院医療管理料	ハイケアユニット入院医療管理料1		
総合入院体制加算2の算定	平成29年（2017年）10月から算定開始	H29/8/1から算定開始	H29/9/1から小児入院医療管理料3		
その他	救急医療体制	二次救急輪番制と三次救急（救命救急センター運営による）	H29/4/1から二次救急輪番制と三次救急	救急については、三次救命救急センターの指定をいただき、順調に患者の受け入れを行っています。また、手術についても、現状の体制では精一杯対応している状況です。いずれも目標達成、更なるレベルアップのためには、医師、看護師等の人員の確保が必要です。	救急受け入れは順調ですが、救急医不足が課題です。職員数が現状のままでは手術件数増は困難で、麻酔科医や呼吸器外科医などの医師不足や看護師不足の解消が必要です。
	救急搬送件数	約8,200件	8,047件		
	手術件数	約4,400件	3,630件		
	全身麻酔件数	約3,000件	2,473件		
	紹介率	約80%	67.3%		
	逆紹介率	約100%	92.6%		

Ⅰ 医療の質と効率の視点

評価	B
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
地域医療連携の中で高度・急性期医療を担う方針のもと、「通院不要の退院率」は、各医師の努力により地域連携を進める中で、著しく良好な結果となったほか、「救急搬送患者受入数」についても「断らない救急」を実践する中で、目標を大きく上回る成果となりました。また、「重症度、医療・看護必要度」「逆紹介率」についても順調であり、職員一丸となって取り組むことで成果を上げることができたと考えています。						
一方で、「手術件数」「全身麻酔件数」については伸び悩んでいます。医師の確保、稼働病床の確保や情報発信により目標達成を目指します。また、「救急車搬送患者入院患者数」の増加、「紹介率」の向上に向けた取組も必要であると考えています。						

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟） 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門	平成29年度				
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37
重症度、医療・看護必要度 (一般病棟) H28実績：29.4	目標値	26.5	27.0	27.5	28.0	7対1入院基本料の施設基準を満たす重症度、医療・看護必要度を維持します。
	上半期実績	29.2				
	年間実績	28.8				
	評価	B	-	-	-	

※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）=（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））/（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））*100

(イ) 救急患者受入数（産科及び小児科（周産期）を含む。） 単位：件

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門	平成29年度				
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37
救急搬送患者受入数 H28実績：7,854	目標値	7,800	8,000	8,100	8,200	救命救急センターを目指し、地域ニーズに応える診療体制を提供します。
	上半期実績	3,933				
	年間実績	8,047				
	評価	B	-	-	-	
救急車搬送患者入院患者数 H28実績：2,420	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850	「断らない救急」を実践するため、救急医療体制を強化し、平成29年4月に救命救急センターの指定を受けました。平成29年度は、近隣消防関係者を対象とした救命救急センター、ヘリポートの紹介を行うなど、消防隊との連携強化を図りました。結果として、平成29年度の救急搬送患者受入数は、前年度比で193件の増加となり、目標を達成することができました。一方で、救急搬送された患者のうち、入院となった患者は、前年度と比べると21件増加したものの、入院率では0.5ポイント減少しており、目標を達成することができませんでした。今後、救急隊との連携を更に密にするとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、重症患者確保を目指します。
	上半期実績	1,174				
	年間実績	2,441				
	評価	C	-	-	-	

(ウ) 通院不要の退院率（総合入院体制加算の施設基準による） 単位：%

【関係部門】	診療部門	平成29年度				
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37
通院不要の退院率 H28実績：28.9	目標値	40	40	40	40	地域医療支援病院として、地域医療連携を強化し、総合入院体制加算の施設基準を維持します。
	上半期実績	43.5				
	年間実績	46.7				
	評価	B	-	-	-	

※通院不要の退院率= {（退院時診療情報提供書作成患者の数）+（転帰が治癒の退院患者（当該又は他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数）} / 総退院患者数（外来化学療法又は外来放射線療法に係る専門外来・HIV等に係る専門外来・死亡を除く）*100

(エ) 手術件数 単位：件

【関係部門】	診療部門	平成29年度				
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37
手術件数 (中央手術室) H28実績：3,696	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	重症患者の診療を中心に行う病院として、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。
	上半期実績	1,850				
	年間実績	3,630				
	評価	C	-	-	-	
全身麻酔件数 H28実績：2,484	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000	当院は、高度急性期及び急性期を担う病院として、「手術」「難しい検査や処置」などの高質で高度な医療を行っていくこととしており、手術件数の増加は不可欠です。このような中で、平成29年度は前年度と比べ手術件数は66件、全身麻酔件数は11件それぞれ減少し、目標を達成することができませんでした。特に医師の退職等の影響があったと考えられ、医師の確保等による手術室の更なる稼働・診療領域の拡大のほか、患者さんや市民への情報発信により、「選ばれる病院」となることで、平成30年度以降の目標達成を目指します。診療科別では、前年度と比べ外科（手術件数144件減、全身麻酔件数75件減）、呼吸器外科（107件減、106件減）、耳鼻咽喉科（38件減、34件減）などで減少が見られた一方で、脳神経外科（85件増、71件増）、泌尿器科（36件増、37件増）、乳腺外科（30件増、20件増）などでは増加が見られました。
	上半期実績	1,213				
	年間実績	2,473				
	評価	C	-	-	-	

(オ) 紹介率・逆紹介率 単位：%

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門	平成29年度				
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37
紹介率 H28実績：62.3	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院として、紹介及び逆紹介を積極的に行います。
	上半期実績	68.5				
	年間実績	67.3				
	評価	C	-	-	-	
逆紹介率 H28実績：86.6	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0	当院は、公立病院として、また「地域医療支援病院」として、国が進める医療の機能分化を推進しており、地域の医療機関との連携は不可欠です。平成29年度は、開業医との連携として開業医訪問やクロスミーティング（開業医との連携の会）の開催、クロスピッチ（開業医とのホットライン）の導入などを行っており、紹介率、逆紹介率ともに、前年度実績は上回ったものの、紹介率については、目標を達成することができませんでした。今後も引き続き地域医療機関との連携を進めてまいります。
	上半期実績	89.4				
	年間実績	92.6				
	評価	B	-	-	-	

※紹介率=紹介患者の数(初診に限る)/{(初診患者の数(初診料算定患者))-救急自動車により搬入された患者数(初診に限る)}-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} *100

※逆紹介率=逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数)/{(初診患者の数(初診料算定患者))-救急自動車により搬入された患者数(初診に限る)}-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} *100

II 患者満足の見点

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
<p>平塚・中郡地域での産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担っていることや「分娩件数」が、前年度を上回り概ね順調であったことから政策的医療を担う病院としての役割を果たすことができたと考えています。</p> <p>また、患者さんに対する情報発信については、患者満足の向上のほか、当院をPRし、認知度を上げていくためにも必要です。そのような中で、「市民向け出張講座開催数」「講演講師派遣数」など外部での取組は、積極的に実施することができました。一方で目標を達成できなかった「市民向け院内講座開催数」については、新しいメニューの検討などが必要であると考えています。今後も、患者さんに限らず市民・社会に対する情報発信を戦略的に進めるとともに、職員一人一人が広報マンであるとの意識のもと、院内での情報共有の徹底と各職員の積極的な情報収集により、引き続き情報発信に努めます。</p>						

(ア) 産科・小児科（周産期）の救急受診患者受入数

単位：件

【関係部門】		診療部門					平成29年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33～H37	評価・検証（部門の長）	
産科	目標値	290	300	305	315	平塚・中郡地域における産科、小児科の二次救急当番は当院のみで担っており、地域住民の皆さんの安心に寄与しています。平成29年度の救急受診患者受入数については、産科が前年度比49件増、小児科は444件減となっていますが、いずれも目標を達成することができました。今後も休日・夜間急患診療所や地域の医療機関と適切な役割分担を図りつつ、市民の安心・安全に寄与してまいります。		
	上半期実績	164						
	年間実績	326						
H28実績：277	評価	B	—	—	—			
小児科	目標値	2,080	2,140	2,200	2,270			
	上半期実績	1,524						
	年間実績	2,737						
H28実績：3,181	評価	A	—	—	—			

(イ) 分娩件数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33～H37	評価・検証（部門の長）	
分娩件数	目標値	490	520	550	580	二次医療圏内で唯一産科入院ができる病院として、多様な出産に対応可能な体制を整備します。	平成29年度の分娩件数は前年度よりも33件増加しましたが、目標達成には至りませんでした。増加の要因としては新館効果、広報（広報ひらつか・スマイル等）の効果などがあったものと推察します。また、患者満足の視点から、助産師外来及び母乳外来による指導の充実を図ったことで、第2子も当院で出産したいという希望もありました。今後も引き続き「子どもを産み育てやすい環境づくり」を進めてまいります。	
	上半期実績	256						
	年間実績	486						
H28実績：453	評価	C	—	—	—			

(ウ) 情報発信件数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33～H37	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。 これまでは、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいましたが、平成30年1月から経営企画課に広報の専従職員を配置し、院内での「市民健康講座」の開催、「ホームページ」「広報誌」の充実などの積極的な情報発信を行っています。平成29年度は、「市民向け院内講座開催数」「ホームページアクセス数」で目標を達成することができませんでした。今後も、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	年間実績	16						
	H28実績：13	評価	A	—	—			
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60			
	年間実績	33						
	評価	D	—	—	—			
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	年間実績	19						
	評価	B	—	—	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	年間実績	80						
	評価	S	—	—	—			
ホームページアクセス数（月平均）	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000			
	上半期実績	19,646						
	年間実績	18,789						
H28実績：19,200	評価	C	—	—	—			
病院広報誌「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000			
	上半期実績	2,000						
	年間実績	8,000						
H28実績：8,000	評価	B	—	—	—			

III 経営・財務の視点

(ア) 経営改善に係るもの

評価	A
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

「医業収支比率」は、目標をわずかに下回りましたが、「経常収支比率」「現年度現金預金額」「累計現金預金額」は目標を達成することができました。良質な医療の提供には、経営の安定化が不可欠であり、今後も医師の確保・稼働病床の確保などによる収入確保や価格交渉などによる経費削減に取り組み、より高いレベルを目指します。

a 医業収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	健全経営を実施するため、医業収支比率の向上に努めます。	<p>医業収支比率の改善には、医業収益の増加、医業費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成29年度は、前年度と比べ医業収益、医業費用ともに増加し、医業収支比率は、わずかに目標には至りませんでした。収益では、入院収益で、7月の救命救急入院料1や8月の総合入院体制加算2の算定開始などの大きな増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどが要因と考えられます。一方の費用では、価格交渉、後発医薬品使用割合の増加などにより、材料費、経費などが前年度から減少したものの、南館解体や北棟（本館）改修工事に伴う資産減耗費の増加などがありました。今後も医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の稼働により収益を確保するとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげるほか、価格交渉による材料費の抑制等を進め、目標達成を目指します。</p>
	上半期実績	93.8					
	年間実績	83.1					
H28実績：86.3	評価	C	—	—	—		

※医業収支比率=（医業収益）/（医業費用）*100

b 経常収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	健全経営を実施するため、経常収支比率100%以上を目指します。	<p>経常収支比率の改善には、収益の増加、費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成29年度は、前年度と比べ収益、費用ともに増加しましたが、経常収支比率は、目標を達成することができました。しかし、入院収益については、7月の救命救急入院料1や8月の総合入院体制加算2の算定開始などの大きな増加要因があるものの、看護師不足により稼働できない病床がある状況です。今後も医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の稼働により収益を確保するとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげるほか、価格交渉による材料費の抑制等を進め、目標達成を目指します。</p>
	上半期実績	112.4					
	年間実績	93.5					
H28実績：93.9	評価	B	—	—	—		

※経常収支比率= {（医業収益）+（医業外収益）} / {（医業費用）+（医業外費用）} *100

c 現金預金残高 単位：百万円

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
現年度現金預金額	目標値	427	387	△182	147	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。	<p>平成29年度末時点の現金預金額は、前年度同時期と比べ、5億円程度増加し、目標を達成しました。しかし、これは3月に完了した工事に係る企業債による借入金振り込まれましたが、支払は4月に行うということが要因であります。今後も引き続き、収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないような的確な運営に努めます。</p>
	上半期実績	225					
	年間実績	500					
H28実績：81	評価	B	—	—	—		
累計現金預金額	目標値	723	1,110	928	1,075	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。	<p>平成29年度末時点の現金預金額は、前年度同時期と比べ、5億円程度増加し、目標を達成しました。しかし、これは3月に完了した工事に係る企業債による借入金振り込まれましたが、支払は4月に行うということが要因であります。今後も引き続き、収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないような的確な運営に努めます。</p>
	上半期実績	1,048※1					
	年間実績	1,324※2					
H29.3末実績：824	評価	S	—	—	—		

※1平成29年9月30日時点

※2平成30年3月31日時点

(イ) 経費削減に係るもの

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

「薬品費対医業収益比率」「診療材料費対医業収益比率」「後発医薬品の使用割合」は、目標を達成することができましたが、「職員給与費対医業収益比率」は、平成28年度と同程度となったものの目標達成には至りませんでした。
診療領域の拡大や稼働病床の確保のために必要な人員確保は行うものの、勤務体制、非常勤職員の見直しや時間外勤務の抑制などにより、効率の良い働き方を構築し、最大の成果を上げることが必要です。引き続き、経費削減に努めるとともに、収益の確保を進めることで、比率の向上に努めます。

a 薬品費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
薬品費 対医業収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	医業収益の増加と薬品購入費の抑制に努めます。	薬品の価格交渉を強力に進めたことや後発医薬品使用割合の増加などにより、平成29年度の薬品費は、前年度比で約2,000万円ほど抑制できており、薬品費対医業収益比率も目標を達成できました。今後も引き続き薬品の価格交渉を進めるとともに、医業収益の増加により、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2						
	年間実績	9.8						
	H28実績：10.3	評価	B	—	—			—

※薬品費対医業収益比率=（薬品費）/（医業収益）*100

b 診療材料費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
診療材料費 対医業収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	医業収益の増加と診療材料費の抑制に努めます。	平成29年度の診療材料費は、価格交渉や安価品への切り替えなどにより、前年度と比べ約1,600万円ほど抑制できており、診療材料費対医業収益比率も目標を達成できました。今後も引き続き診療材料の価格交渉を進めるとともに、医業収益の増加により、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2						
	年間実績	10.1						
	H28実績：10.6	評価	B	—	—			—

※診療材料費対医業収益比率=（診療材料費）/（医業収益）*100

c 職員給与費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
職員給与費 対医業収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	医業収益の増加と給与費の抑制に努め、比率を下げます。	平成29年度は、前年度と比べ医業収益、給与費共に増加し、職員給与費対医業収益比率の目標は達成できませんでした。職員給与費等の固定費は、大幅に削減することが難しい性質を有している上に、平成29年度は、常勤職員の確保、救急科で常勤医が減少したことなどによる臨時医師の増加などにより、給与費が増加しました。今後も常勤医師の確保等による診療領域の拡大や常勤看護師の確保を進め、病床を効率よく稼働することで、収益を確保するとともに、業務の見直し等による時間外勤務の抑制や非常勤医師の勤務体制の見直し等を進めることなどにより、目標達成を目指します。	
	上半期実績	54.8						
	年間実績	65.8						
	H28実績：65.8	評価	C	—	—			—

※職員給与費対医業収益比率=（給与費）/（医業収益）*100

d 後発医薬品の使用割合（使用量ベースによる割合） 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
後発医薬品の 使用割合	目標値	84	85	86	87	可能な限り後発医薬品への切替えを行い、薬品購入費の抑制と後発医薬品係数の増加に努めます。	継続的で絶え間ない取組により、後発医薬品への切替を進めており、平成29年度は目標を達成することができました。今後も引き続き取組を進めてまいります。	
	年間実績	91.5						
	H28実績：85.5	評価	B	—	—			—

※後発医薬品の使用割合=（後発医薬品）/ {（後発医薬品のある先発医薬品）+（後発医薬品）} *100

(ウ) 収入確保に係るもの

評価 C

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

収入確保に向けた喫緊の課題は、入院患者の増加です。看護師の不足などにより、稼働できない病床があることが大きな要因であり、平成30年7月には、一部の病床を稼働しますが、入院患者確保に向けた取組の強化が必要であると考えています。
また、外来患者については、急性期の治療を終えた患者さんについては、地域医療連携により、病状に適した医療機関への紹介を徹底しており、高度・急性期病院として絞り込みを図っていますが、外来患者数の減少の一方で外来診療単価の増加につながっており、当院が目指す方向に沿った成果が出ています。

a 1日当たり平均入院患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	351	351	350	370	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	平成29年度の1日当たり平均入院患者数は、前年度と比べ25.7人減少しています。この大きな要因としては、看護師の不足により稼働できない病床があることなどが考えられます。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげ、平成30年度以降の目標達成を目指します。 診療科別では、特に呼吸器内科、外科などで医師数の減少等により患者数の減少が見られた一方で循環器内科、脳神経外科などで医師数の増加等により患者数の増加が見られました。	
	上半期実績	325.9						
	年間実績	327.7						
H28実績：353.4	評価	C	-	-	-			

b 1日当たり平均外来患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	915	887	852	824	高度急性期及び急性期を担い入院中心の診療を行うため、逆紹介を推進し、外来患者数の抑制を行います。	高度急性期及び急性期を担う病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療し、急性期の治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関を紹介することを徹底しています。平成29年度の実績では、精神科、形成外科など一部の診療科を除き、逆紹介の推進等により、前年度と比べ1日当たり平均外来患者数は減少しており、全体では58.5人の減少となり、目標を達成することができました。今後も引き続き地域医療連携を進めます。	
	上半期実績	877.4						
	年間実績	865.8						
H28実績：924.3	評価	B	-	-	-			

c 入院診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	高度な医療を担う病院として、診療密度の高い診療を行うことで単価の上昇を図ります。	質の高い医療体制を整え、平成29年7月には救命救急入院料1、平成29年8月には総合入院体制加算2の算定を開始したことなどにより、平成29年度の入院診療単価は、前年度と比べ6,000円以上増加し、目標を達成することができました。診療科別で見ても耳鼻咽喉科などの一部の診療科を除き、入院診療単価は前年度より増加しています。 今後も医師の確保等による診療領域の拡大、地域医療連携推進のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、重症患者を確保してまいります。	
	上半期実績	62,136						
	年間実績	63,469						
H28実績：56,879	評価	B	-	-	-			

d 外来診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	救急と紹介を中心とした外来診療を行い、病状が安定した患者さんは逆紹介を行います。	地域医療連携を推進する中で、開業医との役割分担など機能分化が進み、高度急性期及び急性期を担う病院として外来患者数の絞り込みを図ったことで、平成29年度の外来診療単価は、前年度と比べ、1,000円以上増加し、目標を達成することができました。診療科別で見ても呼吸器内科などの一部の診療科を除き、外来診療単価は前年度より増加しています。今後も、引き続き地域医療連携を推進してまいります。	
	上半期実績	12,162						
	年間実績	13,031						
H28実績：11,969	評価	B	-	-	-			

e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入 単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	質の高い医療体制を整え、平成29年7月には救命救急入院料1、平成29年8月には総合入院体制加算2の算定を開始するなどの入院収益の増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから入院収益が伸び悩んでおり、平成29年度は結果として目標を達成できませんでした。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげます。	
	上半期実績	40,959						
	年間実績	85,448						
H28実績：80,169	評価	C	-	-	-			
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	質の高い医療体制を整え、平成29年7月には救命救急入院料1、平成29年8月には総合入院体制加算2の算定を開始するなどの入院収益の増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから入院収益が伸び悩んでおり、平成29年度は結果として目標を達成できませんでした。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげます。	
	上半期実績	9,920						
	年間実績	20,461						
H28実績：21,094	評価	C	-	-	-			

f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

単位：千円

【関係部門】	診療部門、看護部門	平成29年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。 高度急性期及び急性期を担う病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療することとしており、地域医療連携の推進や開業医との役割分担により、外来患者の絞り込みを図り、外来収益が増加しました。今後も高度急性期及び急性期病院として求められる機能を強化します。
	上半期実績	14,622				
	年間実績	30,988				
H28実績：29,388※	評価	C	—	—	—	
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830	
	上半期実績	3,543				
	年間実績	7,421				
H28実績：7,732※	評価	B	—	—	—	

※精査の結果、中間評価時点から変更となっています。

g 病床利用率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門	平成29年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。 平成29年度の病床利用率は、産科病床、小児科病床、ICU/CCU、NICU、GCUで目標を下回りました。これらの病床は緊急患者への対応のためにある程度余裕のある運用が必要ですが、医師の確保等による診療領域の拡大のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげてまいります。 一方で、救急病床は、「断らない救急」の実践による救急搬送患者受入数の増加により、目標を上回る稼働率となったほか、一般病床も目標を上回る稼働率となっており、看護師の確保を進め、病床の稼働を目指します。
	上半期実績	91.5				
	年間実績	91.4				
	評価	B	—	—	—	
	参考1	79.9	—	—	—	
参考2	83.9	—	—	—		
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0	
	上半期実績	96.7				
	年間実績	96.9				
	評価	B	—	—	—	
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	
	上半期実績	86.3				
	年間実績	85.7				
	評価	C	—	—	—	
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	
	上半期実績	76.3				
	年間実績	68.8				
	評価	C	—	—	—	
ICU/CCU (集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	
	上半期実績	65.7				
	年間実績	68.0				
	評価	C	—	—	—	
NICU(新生児特定 集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	
	上半期実績	51.2				
	年間実績	46.0				
	評価	D	—	—	—	
GCU(継続保育治 療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	
	上半期実績	54.7				
	年間実績	51.7				
	評価	C	—	—	—	
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	
	上半期実績	73.7				
	年間実績	77.6				
	評価	B	—	—	—	
	参考1	77.6	—	—	—	

※病床利用率は、(入院延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) *100で算出していますが、参考1「(入院延患者数) / (許可病床ベースでの延病床数) *100」、参考2「(退院患者を除外した延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) *100」を記載しています。

h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】	診療部門、看護部門、地域医療支援部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	高度急性期及び急性期を担う病院として、地域医療連携を推進し、病状が安定した患者さんは後方連携を積極的にいき、在院日数の短縮を図ります。	効率的な治療、計画的な退院支援、地域医療連携の取組などにより、平成29年度の平均在院日数は、前年度実績から0.4日短縮し、目標を達成することができました。今後も高度急性期及び急性期を担う病院として、急性期治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関への紹介を徹底することで、平均在院日数の短縮に努めます。
	上半期実績	10.0					
	年間実績	10.1					
H28実績：10.5	評価	B	—	—	—		

(エ) 経営の安定化に係るもの

評価	B
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>当院は、地域や立地などの点から、医療スタッフ確保は非常に難しい面がありますが、当院の魅力や強みを積極的にPRするほか、丁寧なフォローをすることで、医療スタッフを確実に確保し、診療領域の拡大などにより、経営安定化を目指します。</p>	

a 医師数

単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
常勤医師数	目標値	94	96	98	100	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な医師数を確保します。	安定的かつ効率的に医療を提供し、収益を上げるためには、常勤医の確保が必要ですが、平成29年度は目標に達しませんでした。医師の確保のための活動により、医師数が少ない診療科、欠員が生じている診療科を中心に診療体制の充実を図るとともに、診療領域の拡大を目指します。
	実績	91※ (90※)					
	H28.4.1：92	評価	C	—	—		

※平成29年4月1日時点。（）内は、退職者等を除く定数上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

b 看護師数

単位：人

【関係部門】	看護部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
常勤看護師数	目標値	360	370	380	390	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な看護師数を確保します。	平成29年度の助産師・看護師常勤採用総数は62名。4月1日付で47名（新卒27・既卒19・再任用1）、5月以降は15名（既卒）の採用でした。看護学生の実習を積極的に受け入れるとともに、県内外の学校訪問の強化や合同就職説明会への参加などが採用につながったと考えます。今後も確保・定着に向けて積極的に取り組んで参ります。
	実績	378※ (362※)					
	H28.4.1：354	評価	B	—	—		

※平成29年4月1日時点。（）内は、退職者等を除く定数上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

IV 職員の学習と成長の視点

評価	C
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>職員の教育、育成は当院の基本方針にも位置付ける重要な要素です。今後も教育の場の確保や職員が教育を受けることができる環境を整え、引き続き職員の能力向上を図り、質の高い医療の提供につなげます。</p>	

(ア) 職員向け院内研修会の1人当たりの参加数

単位：回

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	院内では、様々な職員向けの研修会を開催し、職員の資質向上に向けた学習の場を提供しております。平成29年度は、積極的に職員が参加し、目標を達成することができました。今後も、職員の学習意欲を醸成し、参加しやすい環境を整えることで、病院の質の向上につなげてまいります。	
	上半期実績	2.6					
	年間実績	5.4					
	評価	B	—	—	—		

(イ) 有資格者数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門					平成29年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	高度急性期及び急性期を担う病院として、医療の質を向上させるため、質の高い医療職を確保します。	平成29年度も新たに認定を取得した職員がおり、職員の能力向上が図られています。今後も引き続き職員がスキルアップできる環境を確保し、やる気のある医療職の下、質の高い医療の提供につなげていきたいと考えております。
	実績	54※					
	評価	B	—	—	—		
認定看護師数	目標値	17	19	21	23		
	実績	14※					
	評価	C	—	—	—		

※H29年10月1日時点。正規職員の人数。基本領域専門医数は、精査の結果、中間評価時点から変更となっています。

V 社会貢献の視点

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成29年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

公立病院として、引き続き様々なフィールドで社会に貢献しており、今後も目標値に拘らず地域や社会のニーズを踏まえ、積極的に取り組んでまいります。

(ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	平成29年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
救急ワークステーションでの 医師出動件数	目標値	150	150	150	150	公立病院として、社会貢献活動に取り組みます。 当院は災害拠点病院であり、また、救命救急センターの指定を受け、救急医療を担っていることから、社会に還元する活動を指標に設定しています。地元の南原町内会も参加する災害対応医療訓練や自動参集訓練の実施、南原町内会主催の防災訓練への参加、実習の受入れなどにより、災害時における病院の機能維持、救急隊の知識・技術の向上などに資する取組を行い、平成29年度は、目標を達成することができました。今後も災害医療企画室が主導し、様々な訓練等を実施することで、公立病院として、災害拠点病院としての役割を果たしてまいります。
	上半期実績	63				
	年間実績	157				
	評価	B	—	—	—	
災害医療関係行事 数	目標値	10	10	10	10	
	上半期実績	6				
	年間実績	10				
	評価	B	—	—	—	
H28実績：11	評価	B	—	—	—	
救急救命士 病院実習受入人数	目標値	55	55	55	55	
	上半期実績	27				
	年間実績	57				
	評価	B	—	—	—	
H28実績：52	評価	B	—	—	—	

(イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	平成29年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
診療部門	目標値	170	175	180	185	研究会において、研究成果を発表することは、社会貢献や職員の能力向上のほか、病院の知名度向上にもつながります。平成29年度は、診療部門で目標を上回る実績がありました。今後も様々な症例に対応し、それらの成果を社会に還元することで、社会全体の医療の質の向上に寄与したいと考えています。
	年間実績	191				
	H28実績：178	評価	B	—	—	
看護部門	目標値	5	5	6	6	
	年間実績	4				
	H28実績：8	評価	C	—	—	
その他	目標値	30	32	34	36	
	年間実績	19				
	H28実績：22	評価	D	—	—	

(ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門					平成29年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	17	18	19	20	新たな医療職を育てる教育施設として、積極的に受け入れを行います。	社会貢献の観点から、各部署とも人材育成や学生教育に協力し、積極的に学生を受け入れています。平成29年度は、一部の職種で目標値には至りませんでした。看護師不足により稼働できない病床があることや受入れに係る基準等により受入環境が制限されていることも要因の1つと考えられます。今後も、引き続き人材育成に協力してまいります。	
	上半期実績	9						
	年間実績	16						
	評価	C	—	—	—			
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520			
	上半期実績	249						
	年間実績	446						
	評価	C	—	—	—			
H28実績：438	評価	C	—	—	—			
薬剤師	目標値	1	4	4	4			
	上半期実績	1						
	年間実績	1						
	評価	B	—	—	—			
H28実績：2	評価	B	—	—	—			
リハビリテーション技師	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	4						
	年間実績	6						
	評価	C	—	—	—			
H28実績：7	評価	C	—	—	—			
放射線技師	目標値	1	1	2	2			
	上半期実績	2						
	年間実績	2						
	評価	S	—	—	—			
H28実績：0	評価	S	—	—	—			
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	9						
	年間実績	9						
	評価	A	—	—	—			
H28実績：7	評価	A	—	—	—			
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2			
	上半期実績	3						
	年間実績	3						
	評価	S	—	—	—			
H28実績：2	評価	S	—	—	—			
管理栄養士	目標値	8	10	10	10			
	上半期実績	2						
	年間実績	10						
	評価	A	—	—	—			
H28実績：6	評価	A	—	—	—			

(エ) 講座及び講演数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座 開催数	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。これまでの、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいましたが、平成30年1月から経営企画課に広報の専従職員を配置し、院内での「市民健康講座」の開催、「ホームページ」「広報誌」の充実などの積極的な情報発信を行っています。平成29年度は、「市民向け院内講座開催数」で目標を達成することができませんでしたが、今後も、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	年間実績	16						
	評価	A	—	—	—			
市民向け院内講座 開催数	目標値	55	56	57	60			
	年間実績	33						
	評価	D	—	—	—			
医療機関向け公開 講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	年間実績	19						
	評価	B	—	—	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	年間実績	80						
	評価	S	—	—	—			